




発行人 福島県教職員組合  
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
〔定価一部 20円〕  
編集・責任者 國分俊樹  
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
http://www.f-t-u.or.jp  
(この購読料は組合費に含まれています。)

ろうきんのキャッシュカードなら  
ATMお引き出し手数料が  
実質 **0円**   
ご利用手数料はいったんご負担いただく場合がありますが、即時キャッシュバックいたします。  
東北労働金庫

## Face to faceで深まった学び

### 第71次福島県教育研究集会

10月30日(土)、新型コロナウイルス感染予防を徹底した中、対面で開催された日教組第71次福島県教育研究集会は、会場のホテル華の湯(磐梯熱海温泉)に延べ83人が集い、学びを深めました。

午前中は、名古屋大学准教授の内田良さんの講演、午後は、「教育を語る会」と8つの分科会が行われました。内田良さんからは、「学校をカエル!~コロナ禍から教育の持続可能性を展望する~」というテーマで、「現在、学校が抱える様々な業務をそのまま続けることは、病休者や自殺者を増やすことにつながる。『教師のバトン』でも、『バトン』をつなぐための投稿より、いかに教員の働き方がブラックなのかという投稿が膨大だった。『子どものために』だけではなく、『持続可能』な働き方を考えなければならない。」と様々な資料を織り交ぜお話しいただきました。他県で学校部活動が地域部活動に移行されている例や、週3日だけの練習で成績を残している学校なども紹介され、福島県でも粘り強く運動を進めていく必要性を感じました。



## ジェンダー平等について考えよう

### 第47回福島県母と女性教職員の会 第35回反核・軍縮・地球を守る福島県集会



11月14日(日)、県内6会場において、第47回福島県母と女性教職員の会を開催しました。母親、高校生、教職員の立場のパネラーとともに「ジェンダー平等について考えよう」というテーマで、子どもたちのランドセルの色、諸外国の女性の政治参画などの資料から感じたこと、考えたことを共有しました。学校の中では、ジェンダー平等が浸透してきているように感じますが、社会全体から見ると、日本はまだ遅れていることを実感しました。コメンテーターの星恵子さんから「『アンコンシャス・バイアス』(無意識の思い込み・偏見)が問題。強い固定観念に縛られず、『おかしいと思ったこと』『悩んでいること』を声に出していくことが大切。そして、仲間を増やすことが社会を変える力になる。」というコメントをいただきました。

同日の午前中には、反核・軍縮・地球を守る福島県集会が開催されました。フリージャーナリストの藍原寛子さんから「震災から10年、福島の人々の声を聞いて」という題で講演をいただき、福島県民として原発事故の風化は、許してはいけないことであり、後世に伝えていくことの大切さを強く感じました。





# Q & A

木々の落葉と肌寒さに季節の移ろいを感じる季節となりました。それと同時に人事異動の確認が始まり、人事異動希望について校長との相談が始まっていることと思います。組合には、人事闘争委員会(以下「人闘」)があります。支部人闘では、組合で集約した人事個票をもとに人事担当者へ詳しく伝え、本人の希望が、きちんと地教委や教育事務所に伝わっているかを確認します。

## Q1: 現在育休中ですが、異動できますか?

A1: 今年度末の人事異動から2022年4月1日から復帰の確認ができていれば、**育休中であっても異動の対象となります。**同じ分会で育休中の方がいて、悩んでいる場合はアドバイスをしてあげてください。



## Q2: 第4希望まで書くように言われましたが、必ず書かなくてはいけないのですか?

**「空欄は『どこでもいい』と受けとめる」と言われましたが、これってどうなのですか?**

A2: 県教委義務教育課と確認しましたが、「通勤距離や時間、生活スタイルにより、困難な場合は、**全ての欄に記入することはありません。**校長とよく話し合いをして確認ください。」とのこと。



私たち教職員にとって、人事異動は、私生活にも関わる大事な勤務・労働条件です。分会内で人事異動について困っている組合員の方がいたら、一声かけてあげてください。

困ったときやおかしいなと思った時は、「すぐに」福島県教職員組合の各支部へ連絡してください。

専門部から こんにちは



青

年

部



## ひとりで悩まない! 語り合おう (^\_^)



### 仲間とつながろう!

コロナ禍により、職場内での交流が減っている今だからこそ、組合でのつながりが求められていると感じます。もしこれを読んだ方で、悩みを話す場がないという方がいれば、ぜひ、組合を活用してください。青年部では、初めて参加する人でも気軽に参加できるような学習会や交流会を企画しています。悩みを共有したり、他校での取り組みを参考にしたりすることで、気持ちが楽になったという人も実際にいます。初めの一步を踏み出すことに勇気がいるかもしれませんが、組合はいつでもウェルカムです!

### みなさんの声を聞かせてください!

青年部では、もっと青年層の悩みや要求を知りたいと思っています。昨年度の県教委交渉では、結婚休暇の取得期間延長を要求し、今年の7月末に実現しました! 定年延長となり長く働くためには、働きやすい職場づくりが不可欠です。まずは、悩みや疑問に思っていることを聞かせてください。LINE公式アカウントからメッセージを送信すると本部役員が対応します。どんなことでも結構です。ご連絡をお待ちしています。

LINE  
公式アカウント



#こんな働き方でいいの?

変えたいね! 職場の声「これっておかしくない?」

# GIGAスクール構想についての疑問

職場の声が届きました!!



ギガ? 犠我?

by Monster



タブレットが配置されたのはいいんだけど、となりの教室と同時に使うと、通信速度がものすごく遅くなるんだよね。

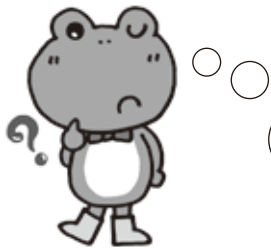
校務分掌でICT担当になったけど、業者との打合せと連絡調整、校内研修会の企画。余計に忙しくなってる…。

教師用のタブレットと子どもたちのタブレットが違うから使いにくいんだよね。仕方ないのかな。明日の研究授業で使いたいけど…。



**問題点**

- ※ICTを授業で有効に活用するための教材研究の時間を確保するのが難しい。(時間の確保)
- ※校舎内のネットワーク環境整備、各家庭のネットワーク環境の保障が難しい。(環境整備)
- ※ICT関連の専門員が、いつでもサポートしてくれる環境の整備ができていない。(人的配置)



これって おかしくない?

## これ! 来年の教育課程編成に絶対使える!!



教職員も子どももわくわくするような学校をつくりたい!  
 そもそも「給特法」って何?  
 「ノー残業デー」は設定してるのに……。早く帰れない。  
 コロナ禍以前の行事に戻す?  
 職場討議資料「明日のために」給特法編を県内小・中学校全教職員に向けて発行しました。教育課程編成に役立つはずですよ。  
 ぜひぜひご活用ください!!





ポスト  
教 研

# 語ろう・学ぼう・気持ちを楽にする集まり



日時：**12月4日(土)**  
**13:00~16:00**

場所：**郡山教組会館** または **Web**  
(郡山市桑野2-33-9 TEL: 024-932-2144)



## 語り合いと広瀬義徳さん(関西大学教授)のお話

テーマ「学校を安心・安全に働ける職場に作り変えよう」

参加希望者は、各支部、またはLINE公式アカウントからお申し込みください。



### みんなのひろば

#### そば酒房 <sup>かお</sup> <sup>や</sup> 香り家 (福島市)

イタリアンもおそばもお酒も楽しめるお店です！  
クラフトビールの種類も豊富で、飲み比べもできちゃいます！一人でも、仲間同士でも、楽しめますよ！  
夏もいいけど、秋冬のビールもたまりません🍷



コロナウィルスの蔓延、働き方改革の推進等をきっかけに学校の意味が問い直されている。今、ICT/タブレット/個別最適/国家統制等々キーワードが並ぶ。そんな中でもよくたちは、子どもたちの主体性と関わり合いを最も大切にしたいと考えている。その理由は、モジュール学習/子どもがつくる時間割などで触れてきた。今回は石川町立沢田中学校で長く教壇に立たれた三輪毅破さんの実践を振り返りたい。三輪さんは、学校祭/生徒会活動/巨大壁画制作などについて教研活動を中心に折に触れて語ってくれた。三輪さんは「学校祭は参加する喜びや成就感、連帯感、団結力、そして心にしみ通る感動を共有するところに大きな意味がある」と強調する。「感動の共有」それは「みんなで感動」できることが重要なのだ。そのためには子どもたち一人ひとりが自信を持って、文化活動として取り組めるような「しくみづくり」組織化を子どもたちがつくるための教師の援助が大切だ。しかし、それが「わずらわしい」と避けられる現状があると指摘している。例えば巨大壁画制作をするときに子どもたち一人ひとりが自分の意思で何らかの役割を選択して、全員が関わることで「感動の共有」が生まれる。一人ひとりの意思決定を大切にしたい組織化は、話し合いが多く確かに「わずらわしい」。でもそれをしないと「感動」は一部のものとなり、共有することにはならない。組織化によって、巨大壁画制作のめざすものが、制作を進める上ではっきりと見え、共有されるのである。壁画専門委員長が「壁画は簡単にできるとは思いません。そんな時こそ全校生の協力が必要なのです。壁画制作を通して一人ひとりが成長し、さらに学校全体としてはばたけるようにがんばります。」こう全校生に呼びかけていることで意図がはっきり分かる。ぼくは、三輪さんの実践から、「心にしみ通る感動の共有」の重要性を学んだ。小学校でもやってみようと思った。「子どもは行事の中で育つ」という基本的な考え方を教師集団の意識としてどうつくりあげていくかが課題である。三輪さんは話す。「わずらわしい」「時間がかかる」としても、今だからこそ学校でその意味を意識して欲しい。

(K・I)



今回のテーマは「学校の意味②」

